

作成日：2024/03/30

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称：

製品名称：浸透スプレー(N)

推奨用途及び使用上の制限

推奨用途：金属の中長期防錆および可動部の潤滑

使用上の制限：上記の用途以外には使用しないこと。

供給者の会社名称、住所及び電話番号

供給者の会社名称：英昌化学工業株式会社

住所：愛知県安城市三河安城東町2-10-1

電話番号：(0566)76-5331

FAX：(0566)76-3025

2. 危険有害性の要約

化学品のGHS分類、GHSラベル要素

GHS分類

物理化学的危険性

エアゾール : 区分 1

健康に対する有害性

特定標的臓器毒性(単回ばく露): 区分1(循環器系)
区分3(麻酔作用)

特定標的臓器毒性(反復ばく露): 区分1(中枢神経系)

誤えん有害性 : 区分1

(注) 記載なきGHS分類区分: 区分に該当しない/分類できない

GHSラベル要素



注意喚起語: 危険

危険有害性情報

極めて可燃性の高いエアゾール

高圧容器: 熱すると破裂のおそれ

循環器系の障害

呼吸器への刺激のおそれ、眠気又はめまいのおそれ

長期にわたる反復ばく露による中枢神経系の障害

飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ

注意書き

安全対策

熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。

裸火または他の着火源に噴霧しないこと。

使用後を含め、穴を開けたり燃やしたりしないこと。

保護手袋を着用すること。

ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。

屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。

取扱い後は汚染箇所をよく洗うこと。

保護眼鏡/保護面を着用すること。

使用前に取扱説明書を入手すること。

すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。

応急措置

- 気分が悪い時は、医師に連絡する。
- 特別な処置が必要である。
- 皮膚刺激が生じた場合：医師の診断/手当を受けること。
- ばく露またはばく露の懸念がある場合：医師の診断/手当を受けること。
- 漏出物を回収すること。

貯蔵

- 施錠して保管すること。
- 日光から遮断し、40℃以上の温度にばく露しないこと。

廃棄

- 内容物/容器を地方/国の規則に従って廃棄すること。

エアゾール製品に関する高圧ガス保安法の警告注意表示

- 使用中噴射剤が噴出する構造のもの（火災発生状態試験による火災が認められるもの又は噴射剤として可燃性ガスを使用しているもの）

火気と高温に注意

- 高圧ガスを使用した可燃性の製品であり、危険なため、下記の注意を守ること。
- 炎や火気の近くで使用しないこと。
- 火気を使用している室内で大量に使用しないこと。
- 高温にすると破裂の危険があるため、直射日光の当たる所や火気等の近くなど温度が40℃以上となる所に置かないこと。
- 火の中に入れてないこと。
- 使い切って捨てること。
- 高圧ガス： **LPG**

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別：混合物

成分名	CAS No.	含有量 (%)	化審法番号
潤滑油基油	非公開	45以上	-
潤滑油添加剤	111-76-2	3以下	-
プロパン	74-98-6	10.0 - 20.0	2-3
n-ブタン	106-97-8	30.0 - 40.0	2-4
イソブタン	75-28-5	1.0 - 5.0	3-3 3-60

注記：これらの値は、製品規格値ではありません。
重量%の通知により当社の利益を不当に害するおそれのあるものは、成分表にて含有量を幅表示にしています。

4. 応急措置

応急措置の記述

一般的な措置

- 気分が悪いときは医師に連絡すること。

吸入した場合

- 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
- 気分が悪いときは医師に連絡すること。

皮膚(又は髪)に付着した場合

- 皮膚刺激が生じた場合：医師の診察/手当を受けること。

眼に入った場合

- 水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。
- その後も洗浄を続けること。
- 眼の刺激が続く場合：医師の診察/手当を受けること。

飲み込んだ場合

口をすすぐこと。

気分が悪いときは医師に連絡すること。

急性症状及び遅延性症状の最も重要な徴候症状

徴候症状及び影響に関する具体的な情報なし。

医師に対する特別な注意事項

特別な処置が必要である。

5. 火災時の措置

消火剤

適切な消火剤

火災の場合は霧状水、泡、粉末、炭酸ガスを使用すること。

使ってはならない消火剤

噴流水を消火に用いてはならない。

特有の危険有害性

火災の際に刺激性ガスまたは有害ガスを発生するおそれがあるので、煙の吸入を避けること。

加熱すると容器が爆発するおそれがある。

消火を行う者への勧告

特有の消火方法

関係者以外は安全な場所に退去させる。

安全に対処できるならば、製品容器を火災危険区域から移動すること。

消火作業は、可能な限り風上から行う。

消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置

防火服又は防災服を着用すること。

消火作業従事者は全面型陽圧の自給式呼吸保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

関係者以外は近づけない。

適切な保護具を着用する。

着火源を取除くとともに換気を行う。

風上から作業し、風下の人を退避させる。

安全に対処できる場合は漏洩を止める。

環境に対する注意事項

漏れ出した物質の下水、排水溝、低地への流出を防止する。

下水、排水中に流してはならない。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

十分な換気を行い、速やかに大気中に拡散、希釈させる。

不活性の物質(乾燥砂、土など)に吸収させて、容器に回収する。

多量に流出した場合、盛土で囲ってのち処理する。

回収物はラベルを貼って密閉容器に保管する。

清浄な帯電防止工具を用いて吸収したものを集める。

二次災害の防止策

着火した場合に備えて、消火用器材を準備する。

全ての発火源を取り除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)

排水溝、下水溝、地下室、あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

(取扱者のばく露防止)

ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。

(火災・爆発の防止)

熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。
裸火または他の着火源に噴霧しないこと。
静電気放電に対する措置を講ずること。

エアゾール製品に関する高圧ガス保安法の警告注意表示

火の中に入れていないこと。
炎や火気の近くで使用しないこと。
火気を使用している室内で大量に使用しないこと。

(注意事項)

眼に入らないようにする。

安全取扱注意事項

使用前に取扱説明書を入手すること。
全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。
保護手袋を着用すること。
保護眼鏡/保護面を着用すること。
指定された個人用保護具を使用すること。
使用後を含め、穴を開けたり燃やしたりしないこと。
容器の溶接、加熱、穴あけ、切断などはしない。

接触回避

強酸化性物質との接触を避けること。

衛生対策

眼、衣類につけないこと。
取扱い後は汚染箇所をよく洗うこと。
この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
取扱い後はよく手を洗う。

保管**安全な保管条件**

換気の良い場所で保管すること。
容器を密閉しておくこと。
涼しいところに置き、日光から遮断すること。

エアゾール製品に関する高圧ガス保安法の警告注意表示

高温にすると破裂の危険があるため、直射日光の当たる所や火気等の近くなど温度が40℃以上となる所に置かないこと。

(避けるべき保管条件)

乳幼児の手の届かないところに保管すること。
直射日光、高温、着火源(裸火、火花など)を避けること。

安全な容器包装材料データなし

8. ばく露防止及び保護措置**管理指標****許容濃度****(鉱油ミスト)**

日本産衛学会 3mg/m³ ACGIH 5mg/m³

(n-ブタン)

日本産衛学会(1988) 500 ppm; 1,200 mg/m³

(イソブタン)

日本産衛学会(1988) 500 ppm; 1,200 mg/m³

(プロパン)

ACGIH: 付録F参照: 最小酸素濃度(D,EX) (窒息)

(n-ブタン)

ACGIH(2017) STEL: 1,000 ppm(EX) (中枢神経系障害)

(イソブタン)

ACGIH(2017) STEL: 1,000 ppm(EX) (中枢神経系障害)

ばく露防止

設備対策

適切な換気のある場所で取扱う。

手洗い/洗顔設備を設ける。

保護具

保護具は必要としない。

9. 物理的及び化学的性質

基本的な物理的及び化学的性質に関する情報

物理状態：エアゾール

色：茶褐色透明液体(原液)

臭い：油剤臭(原液)

融点/凝固点データなし

沸点又は初留点データなし

可燃性(ガス、液体及び固体): 引火性

爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界：

爆発下限：1.8 vol % (ブタン)

爆発上限：9.5 vol % (プロパン)

引火点：(プロパン) -104 °C

自然発火点：(n-ブタン) 365 °C

pH：データなし

溶解度：水に不溶(原液)

密度：0.81(15°C)(原液)

10. 安定性及び反応性

反応性

自己反応性なし

化学的安定性

極めて揮発性・引火性の高い液体。

空気との混合ガスは引火爆発する恐れがある。

危険有害反応可能性

ガスは引火して爆発するおそれがある。

避けるべき条件

直射日光、高温、着火源(裸火、火花など)を避けること。

混触危険物質

強酸化性物質

危険有害な分解生成物

熱分解により以下の物質を生成する。

炭素酸化物、窒素酸化物、

11. 有害性情報

毒性学的影響に関する情報

急性毒性

データなし

局所効果

皮膚腐食性/刺激性

データなし

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性

データなし
 呼吸器感作性又は皮膚感作性
 呼吸器感作性
 データなし
 皮膚感作性
 データなし
 生殖細胞変異原性
 データなし
 発がん性
 データなし
 生殖毒性
 データなし
 特定標的臓器毒性
 特定標的臓器毒性(単回ばく露)
 「区分1(循環器系の障害)」
 「区分3(麻酔作用:眠気およびめまいのおそれ)」
 特定標的臓器毒性(反復ばく露)
 「区分1(長期にわたる反復ばく露による中枢神経系の障害)」
 誤えん有害性
 「区分1(飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ)」

12. 環境影響情報

生態毒性
 水生環境有害性
 データなし
 土壤中の移動性
 土壤中の移動性データなし
 他の有害影響
 オゾン層への有害性データなし

13. 廃棄上の注意

化学品、汚染容器及び包装の安全で、かつ、環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報
 廃棄物の処理方法
 環境への放出を避けること。
 内容物/容器を地方/国の規則に従って廃棄すること。
 下水、地中、水中への廃棄を行ってはならない。
 エアゾール製品に関する高圧ガス保安法の警告注意表示
 使い切って捨てること。
 汚染容器及び包装
 使用後を含め、穴を開けたり燃やしたりしないこと。

14. 輸送上の注意

国連番号、国連分類
 国連番号またはID番号 : 1950
 正式輸送名 :
 エアゾール、可燃性
 分類または区分 : 2.1
 容器等級 : 該当しない
 指針番号: 126
 特別規定番号 : 63; 190; 277; 327; 344; 381

IMDG Code (国際海上危険物規程)

国連番号またはID番号 : 1950

正式輸送名 :

エアゾール、可燃性

分類または区分 : 2.1

容器等級 : 該当しない

特別規定番号 : 63; 190; 277; 327; 344; 381; 959

IATA (航空危険物規則書)

国連番号またはID番号 : 1950

正式輸送名 :

エアゾール、可燃性

分類または区分 : 2.1

危険性ラベル : Flamm. gas

容器等級 : 該当しない

特別規定番号 : A145; A167; A802

環境有害性

海洋汚染物質 (該当/非該当): 非該当

特別の安全対策

特別の安全対策データなし

MARPOL 73/78付属書II及びIBCコードによるばら積み輸送される液体物質

本品はバルク輸送されない。

国内規制がある場合の規制情報

船舶安全法

ガス類 引火性ガス 分類2 区分2.1

航空法

高压ガス 引火性ガス 分類2 区分2.1

15. 適用法令

当該製品に特有の安全、健康及び環境に関する規則/法令

毒物及び劇物取締法

毒物及び劇物取締法に該当しない。

労働安全衛生法

特化則に該当しない

有機則に該当しない

名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物

名称表示危険/有害物

名称通知危険/有害物

化学物質管理促進(PRTR)法

消防法

危険物第4類第三石油類(非水溶性) 危険等級Ⅲ

高压ガス保安法

このエアゾール製品は容器内容積が1リットル以下、及び温度35°Cにおいて圧力0.8MPa以下、かつ高压ガス保安法施行令関係告示第四条第三項に該当するため、高压ガス保安法の適用除外となります。

16. その他の情報

参照文献及び情報源

Globally Harmonized System of classification and labelling of chemicals, UN

Recommendations on the TRANSPORT OF DANGEROUS GOODS 22nd edit., 2021 UN

IMDG Code, 2020 Edition (Incorporating Amendment 40-20)

IATA 航空危険物規則書 第64版 (2023年)

2020 EMERGENCY RESPONSE GUIDEBOOK (US DOT)

2023 TLVs and BEIs. (ACGIH)

JIS Z 7252 : 2019

JIS Z 7253 : 2019

2022 許容濃度等の勧告（日本産業衛生学会）

厚生労働省 基安化発0111第1号(令和4年1月11日)

Supplier's data/information

GESTIS-Stoffdatenbank

Pub Chem (OPEN CHEMISTRY DATABASE)

責任の限定について

本記載内容は、現時点で入手できる資料、情報データに基づいて作成しており、新しい知見によって改訂される事があります。また、注意事項は通常の実施を前提としたものであって、特殊な取扱いの場合には十分な安全対策を実施の上でご利用ください。

ここに記載したGHS分類区分の算定根拠は現時点における日本公表データ（NITE 令和4年度(2022年度)）です。